

出資団体台帳

出資団体名	33.一般財団法人荘川観光振興公社
-------	--------------------------

所管課	観光課
担当	

1. 出資団体概要 (令和5年4月1日現在)

①法人分類	公益・一般社団法人 ()		
②業務分類	観光・レジャー ()		
③主な活動範囲	市内規模 ()		
④所在地	高山市荘川町猿丸82-1		
⑤設立年月日	平成元年4月3日		
⑥従業員数	役員	(常勤)	(非常勤) 11人
	正社員	(常勤)	(内出向)
⑦役員等	役職名	氏名	市所属・職位
	代表者		
	役員		
⑧資本金 20,000 千円			
	出資者	資産種別	出資額 出資割合
	高山市	出えん金	20,000千円 100.0%
	他自治体		0.0%
	その他		0.0%
	【備考】		

⑨設立目的			
	定款に掲げる主な事業内容	現在の実施の有無	
	観光宣伝及び観光客誘致に関する事業	実施	理由 () 観光客
	観光資源の開発調査、研究及び保護に関する事業	実施	理由 () 観光客
	観光に関する調査並びに情報収集及び提供に関する事業	実施	理由 () 観光客
	観光に関する刊行物の発刊に関する事業	実施	理由 () 観光客
	高山市有観光施設の受託管理及び運営に関する事業	実施	理由 () 観光客
	特産物の発掘、製造直売に関する事業	実施	理由 () 観光客
			理由 ()
			理由 ()
			理由 ()
			理由 ()
⑩地域の関わり			
荘川地域における地域振興や観光振興の観点から事業展開しており、荘川地域住民の役員就任により運営されている。			
⑪市民の関わり			
桜香の湯は地域住民のほか多くの市民に利用されている。高齢者等車の運転が出来ない住民に対しては公社による送迎を実施するなど、住民の憩いの場となっている。 桜香の湯は高齢者の入浴料の一部を市が助成する指定保養施設として、高齢者の健康推進や心身のリフレッシュに貢献している。 地域住民の就職先の一つである。 荘川の里は高山市民のみ入場無料としている。			
⑫経緯			
出資時の状況	H元.4 荘川観光振興公社を設立し、桜香の湯、荘川の里、そばの里荘川の管理運営や、荘川地域の活性化、観光事業の振興を目的とし、旧荘川村が出えん(500万円)		
その後の経緯	H2 旧荘川村が500万円出えん H3 旧荘川村が800万円出えん H4 旧荘川村が200万円出えん H17.2.1 市町村合併により高山市に20,000千円の出資を継承		

2. 事業概要

①事業	②市事業	③種別	④業務内容、状況、課題等 (施設がある場合は、施設ごとの状況、公共施設等総合管理計画における方針を記入)	⑤事業収支	⑥定性的評価		
					市による 関与の必要性	民間による 代替性	事業の 採算性
高山市指定管理業務	○	指定管理事業	桜香の湯 譲渡 (譲渡がない場合はあり方を検討) コロナによる影響により経営は厳しい状況が続いている。 R4指定管理料 24,380千円	黒字	有	有	無
高山市指定管理業務	○	指定管理事業	そばの里荘川 レストランは譲渡 (譲渡先が無い場合は廃止) コロナによる影響により経営は厳しい状況が続いている。 R4指定管理料 7,560千円	黒字	有	有	無
高山市指定管理業務	○	指定管理事業	荘川の里 継続 コロナによる影響により経営は厳しい状況が続いている。 R4指定管理料 7,651千円	黒字	有	無	無
飛騨ふるさと村役場事業	—	受託事業	全トヨタ労働組合連合会より補助金を受けて運営している。	黒字	有	無	有

3. 財務状況

(1) 貸借対照表		(平成31年3月31日現在)		(令和2年3月31日現在)		(令和3年3月31日現在)		(令和4年3月31日現在)		(令和5年3月31日現在)		
項目	A	平成30年度	第 30 期	平成31年度	第 31 期	令和2年度	第 32 期	令和3年度	第 33 期	令和4年度	第 34 期	
		決算額	前年比増減	決算額	前年比増減	決算額	前年比増減	決算額	前年比増減	決算額	前年比増減	
資産の部合計	A	31,556 千円	1.5 %	33,575 千円	6.4 %	35,454 千円	5.6 %	42,012 千円	18.5 %	43,196 千円	2.8 %	
流動資産	B	8,425 千円	38.3 %	10,373 千円	23.1 %	12,241 千円	18.0 %	17,886 千円	46.1 %	19,179 千円	7.2 %	
固定資産	C	23,131 千円	▲7.5 %	23,202 千円	0.3 %	23,213 千円	0.0 %	24,126 千円	3.9 %	24,017 千円	▲0.5 %	
繰延資産		0 千円				0 千円		0 千円		0 千円		
負債の部合計		19,903 千円	12.5 %	24,823 千円	24.7 %	25,209 千円	1.6 %	31,156 千円	23.6 %	30,183 千円	▲3.1 %	
流動負債	D	19,090 千円	23.0 %	24,547 千円	28.6 %	24,419 千円	▲0.5 %	30,893 千円	26.5 %	29,549 千円	▲4.4 %	
(うち借入金)		(10,207 千円)	#DIV/0!	(10,582 千円)	3.7 %	(9,011 千円)	▲14.8 %	(17,945 千円)	99.1 %	(17,036 千円)	▲5.1 %	
固定負債		813 千円	▲62.4 %	276 千円	▲66.1 %	790 千円	186.2 %	263 千円	▲66.7 %	634 千円	141.1 %	
(うち借入金)	F	(0 千円)		(0 千円)		(0 千円)		(0 千円)		(0 千円)		
純資産の部	G	11,653 千円	▲13.1 %	8,752 千円	▲24.9 %	10,245 千円	17.1 %	10,855 千円	6.0 %	13,014 千円	19.9 %	
資本金		20,000 千円	0.0 %	20,000 千円	0.0 %	20,000 千円	0.0 %	20,000 千円	0.0 %	20,000 千円	0.0 %	
利益剰余金等		▲ 8,347 千円	▲26.7 %	▲ 11,248 千円	▲34.8 %	▲ 9,755 千円	13.3 %	▲ 9,145 千円	6.3 %	▲ 6,986 千円	23.6 %	
健全性指標	債務超過の有無 (G)	目標：無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	
	自己資本比率 (G/A)	目標：50%以上	36.9%	▲14.4 %	26.1%	▲29.4 %	28.9%	10.9 %	25.8%	▲10.6 %	30.1%	16.6 %
	流動比率 (B/D)	目標：150%以上	44.1%	12.5 %	42.3%	▲4.2 %	50.1%	18.6 %	57.9%	15.5 %	64.9%	12.1 %
	固定比率 (C/G)	目標：100%以下	198.5%	6.5 %	265.1%	33.6 %	226.6%	▲14.5 %	222.3%	▲1.9 %	184.5%	▲17.0 %
	借入金依存度 ((E+F)/A)	目標：前年比較減	32.3%	#DIV/0!	31.5%	▲2.6 %	25.4%	▲19.4 %	42.7%	68.1 %	39.4%	▲7.7 %

(2) 損益計算書		(平成30年4月1日から平成31年3月31日)		(平成31年4月1日から令和2年3月31日)		(令和2年4月1日から令和3年3月31日)		(令和3年4月1日から令和4年3月31日)		(令和4年4月1日から令和5年3月31日)	
項目	A	平成30年度	第 30 期	平成31年度	第 31 期	令和2年度	第 32 期	令和3年度	第 33 期	令和4年度	第 34 期
		決算額	前年比増減	決算額	前年比増減	決算額	前年比増減	決算額	前年比増減	決算額	前年比増減
営業収益		142,474 千円	▲1.6 %	161,237 千円	13.2 %	150,033 千円	▲6.9 %	154,806 千円	3.2 %	181,511 千円	17.3 %
営業費用		144,162 千円	0.0 %	164,066 千円	13.8 %	148,469 千円	▲9.5 %	154,124 千円	3.8 %	179,280 千円	16.3 %
(うち売上原価) (対営業収益比率)		(29,651 千円)	(20.8%)	(31,327 千円)	(19.4%)	(20,741 千円)	(13.8%)	(22,160 千円)	(14.3%)	(31,301 千円)	(17.2%)
(うち人件費) (対営業収益比率)		(52,509 千円)	(36.9%)	(59,000 千円)	(36.6%)	(62,973 千円)	(42.0%)	(61,349 千円)	(39.6%)	(61,310 千円)	(33.8%)
〈営業損益〉		▲ 1,688 千円	▲337.4 %	▲ 2,829 千円	▲67.6 %	1,564 千円	155.3 %	682 千円	▲56.4 %	2,231 千円	227.1 %
営業外損益						0 千円		0 千円		0 千円	
〈経常損益〉		▲ 1,688 千円	▲337.4 %	▲ 2,829 千円	▲67.6 %	1,564 千円	155.3 %	682 千円	▲56.4 %	2,231 千円	227.1 %
〈当期純損益〉		▲ 1,759 千円	▲375.3 %	▲ 2,901 千円	▲64.9 %	1,493 千円	151.5 %	610 千円	▲59.1 %	2,159 千円	253.9 %

〈評価分析〉 恒常的な業績不良による利益剰余金のマイナスが続いており財務状況は弱い。自己資本比率は若干低くなっているものの、営業損益は指定管理料の増加もあり（R3指定管理料51,884千円、R4指定管理料39,591千円）プラスとなるなど黒字に転じている。

4. 市の財政的関与

区分	平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
出資金					
負担金、補助及び交付金					
指定管理料					
その他					
備考	指定管理料内訳 桜香の湯・そばの里荘川・荘川の里 H29 22,552千円、H30 24,938千円、H31 23,693千円、R2 52,991千円、R3 51,841千円、R4 39,591千円 補助金内訳 温泉保養施設利用費補助金 H29 1,097千円、H30 1,143千円 H31 1,094千円 R2 653千円 R3 644千円、R4 726千円 その他 電気自動車用急速充電電気料金（桜香の湯）他 H29 272千円 H30 249千円 H31 219千円 R2 244千円 R3 319千円、R4 656千円				

5. 課題等

項目		市所管課	団体
S W O T 分 析	内部分析	強み	<ul style="list-style-type: none"> ・特色ある施設を有しており、老若男女幅広い客層に利用されている。 ・団体に対し地域内の住民や事業者が役員就任で関わっており、地域との繋がりが大きい。
		弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・光熱費等の経費が年々大きくなっている。
	外部分析	機会	<ul style="list-style-type: none"> ・人流が戻りつつある。
		脅威	<ul style="list-style-type: none"> ・東海北陸自動車道荘川ICでの降車が少ないため、利用者が減少傾向にある。
事業面 (必要性、公益性、採算性、収益性など)		<ul style="list-style-type: none"> ・桜香の湯について、固定費の負担が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・桜香の湯について、固定費の負担が大きい。
財政面 (財務状況の現状や将来の見通しなど)		<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ後を見据え、利用者増加に向けた情報発信に努めるとともに、経費節減に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ後を見据え、利用者増加に向けた情報発信に努めるとともに、経費節減に努めている。
施設・設備 (所有する建物や設備等の状況など)		<ul style="list-style-type: none"> ・施設全体の老朽化が進んでおり、建物や設備等の計画的な改修が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設全体の老朽化が進んでおり、建物や設備等の計画的な改修が必要である。
組織・人員体制 (役員や従業員等の状況など)		<ul style="list-style-type: none"> ・役員や従業員の高齢化 ・担い手不足のため人材確保が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・役員や従業員の高齢化 ・担い手不足のため人材確保が難しい。
公共施設等総合管理計画 (方針と今後の考え方)		—	<ul style="list-style-type: none"> ・桜香の湯 市が進める譲渡に向けた調整に協力する。 ・そばの里荘川(レストラン) 市が進める譲渡に向けた調整に協力する。 ・荘川の里 地域と連携しながら、更なる誘客に努める。
自由記載 (団体や事業の今後のあり方や果たすべき役割について)		<ul style="list-style-type: none"> ・財政面の回復の兆しが見えないなかで、桜香の湯とそばの里荘川(心打亭)は譲渡を見込んでいるため、譲渡しても運営できる体制や見直しが必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・財政面の回復の兆しが見えないなかで、桜香の湯とそばの里荘川(心打亭)は譲渡を見込んでいるため、譲渡しても運営できる体制や見直しが必要